

第 9 回 富士見市総合計画等審議会

議事録

日 時	令和 8 年 3 月 1 1 日 (水)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 9 時 0 0 分		
場 所	富士見市役所 1 階 全員協議会室					
出 席 者	委 員	鏡会長	志摩副会長	赤羽委員	朝賀委員	荒井委員
		○	○	○	○	-
		市川委員	大堀委員	小野寺委員	関口委員	関谷委員
		○	○	○	○	○
		出谷委員	堀端委員	山本委員	吉原委員	
		○	○	○	○	
	事務局	政策財務部 磯谷部長 政策企画課 平課長、常盤副課長、齋藤主査、新井主査				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 名)					
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 令和 7 年度行政評価について</p> <p>4 閉 会</p>					

議 事 内 容 (要 旨)

1 開 会 平政策企画課長

2 会長あいさつ 鏡会長

3 議 事 鏡会長 進行

(1) 令和7年度行政評価について

事務局より、令和7年度行政評価の総括について説明。

委員：放課後児童クラブの運営主体が変わるため、今までと運営が大きく変わることになるかと聞いている。経営の合理化を進めることは行政として大切だが、内容については丁寧に対応することが必要である。また、経費の視点のみで運営体制を整理することがないようにお願いしたい。

会長：事務局の説明内容とは直接関係ないが、大変話題になっているので可能な範囲で回答をお願いしたい。

事務局：放課後児童クラブの指定管理につきましても、委託で決まった内容以外の提案を比較することで審査するプロポーザル方式により選定している。選定は、市職員、学識経験者のほか学童を利用している保護者の方で構成した審査委員会を設置して審査を行い、議会での議決を経る流れとなっている。現状4月以降もこれまでと同じ体制で運営できるという形で調整ができています。

会長：指定管理者制度は今の説明のとおり、経済性と専門性という視点が求められていることから、制度を有効活用するために、しっかり効果を見ていく必要がある。

会長：第1期基本計画の最終年度評価なので、評価がきちんと出ていると分析しているが、メルクマールとなるK S FやK P Iの弱さを感じる。例えば、評価の中で「情報発信をしたため」、「のぼり旗を配布したため」とあったが、そこで終わらずに、その結果どう変わったのかを評価する指標が詰め切れていなかったと感じる。第2期基本計画においてもその視点でご議論いただいたが、事業を俯瞰できる指標が見出しにくく、指標作成には難しさがある。

委員：事業の推進に関する情報量の問題が評価に影響していると考えます。こういう取組をしている、こういうふうに変えたということが市民に伝わり

づらいのではと感じる。事業の取組成果としてまだ足りない部分もあるが、より分かりやすく端的に市民に伝わる情報発信をすることで、評価の低い分野についても全体的な底上げにつながるのではないかと。

事務局より第9回富士見市総合計画等審議会での審議について説明。

<分野別審議>

分野1 子ども・子育て支援

委員：産前・産後等支援事業の推進のK S F、産前・産後サポート事業の開催日数について、目標値を週5日としているが、令和6年度から週1日の実施と回数減少しているのはなぜか。

事務局：開催日が多いことによる参加者の分散化や、参加者のいない日もあったことから開催日と回数を見直したため減少しているもの。

委員：産後に母親が外出するのは、タイミングも含めて大変である。それにも関わらず利用者数は増加していることから、開催回数を週2日に戻し事業のPRをしてほしい。

委員：資料3は分野でまとめて評価点を算出しているが、資料4は各分野の施策での評価となっており、特に評価が下がっているところや問題となっているところがわかりにくいので、もう少しピックアップした説明が必要である。

会長：ご意見のとおりもっとフォーカスした説明とした方が本来は良いが、限られた時間でより多くの関心領域としたことから、このような形になっていると考える。また、事業数も膨大であることから、すべてに精通している職員は多分いないと思うので、わかる範囲での説明となってしまうのがこの評価の難しいところである。

委員：乳幼児健診の受診率がすごく高く、受診させていない場合はネグレクトとも考えられるが、乳児検診に来ない場合にその可能性が把握できるのは良いことだと思う。また、乳児家庭全戸訪問率が99.4%と非常に高いが残りの0.6%に対してはどのようにフォローしているのか。

事務局：乳幼児健診が未受診である世帯に対しては、担当部署で必ず面談を実施する体制を整備しており、海外に行ってしまった等の理由でどうしても受診できない方が0.6%の主な要因となっている。

分野3 学校教育

委員：STEM教育に注力しているが、本当に学力がつくのか疑問である。もっと数学に関する教育に力を入れてほしい。

事務局：STEM教育では、結果だけでなくその過程についても学習の一環としている。例えば、数学的な考えに尖っていくという考え方もあるが、論理的に考えることを養うために小学校、中学校ではSTEM教育を継続していく。

委員：算数や国語をベースにしっかり学習する教育が富士見市ではできており、その特色としてSTEM教育を実施している。理数のベースがしっかりあって、その上にSTEM教育、そのさらに上にプログラミング教育があるので、ベースとなる教育をしっかりやっていく必要がある。

委員：5年間の平均評価を下回った要因が青少年相談員の減と、いのちの授業に関する内容ということか。

事務局：青少年相談員の減少による活動体制の縮減と、いのちの授業に関することではなく、「いのち」を大切にする教育の推進に関するアンケート結果が悪化したことが評価の低下した要因である。

委員：自己肯定感については、自尊感情ということで取り組んでいることから、それぞれ学校が特色を出して取り組んでいるが、アンケートの数値としては難しいものとする。現在はいのちの授業プラスとして助産師やPUSSH教育など他市に比べて新たな取組を導入していることから、数値は向上するものとする。

分野4 地域福祉

委員：ボランティアについては、個人数は増加しているものの、団体数は世代交代等の影響で減少している状況。ボランティア講座などの開催など取り組んではいるが、なかなか数に反映してこないのを継続して取り組む。

委員：ボランティアに関して、団体数と個人数での延べ人数の割合について、102団体で構成員がどのぐらいなのか全体値がわかるように集計できているのか。

委員：重複されている方もいるが、個人全員を把握することはできていない。

委員：重複してる方がいる状況では、数値の出し方をしっかり整理しないと、目標に対する到達割合が見えてこないのではないかと。

会長：福祉政策課において、指標となる数字の算出、純然たるボランティアの人数をしっかりと作り出すやり方も整理する必要がある。

委員：自立支援について、生活サポートセンターでのプラン作成件数の記載はあるが、この制度を使って生活保護でなくなった件数等は把握しているのか。

事務局：プラン作成件数を活用したものではないが、生活保護全体としての保護率をK P Iとして算出している。

会長：自立支援は一つの大きな柱ではあるものの、国民の権利として生活保護を受けられるという柱もあるため、あまり自立支援を強調すると、誤解を与える恐れがあるので注意する必要がある。

分野 1 1 人権・男女共同参画

委員：県立高校を共学化する動きがあるが、無理矢理男女共学にする必要はないと考えるので、市として県に意見を出してほしい。

委員：16-1人権教育・啓発の推進のK P Iである人権の大切さを認識している割合の算出方法を確認したい。

事務局：人権に関する意識調査にて取得しているものである。

委員：人権啓発等の活動の実施は良いことだが、人権とはそもそも対国家、対権力という概念であり、個人が人権の享有主体という考えが大前提にあるので、そこから他人の権利も大事ということにつながると思う。これを踏まえて人権教育を推進してほしい。

委員：女性の社会進出、ワークライフバランスの推進など数値目標を掲げているが、数値目標にとらわれると実務に則さない側面が出てくると考える。例えば、女性の社会進出については、昇進ばかり進めても就業環境が伴わないと責任のみ持たされて、辞めていく女性が多い状況である。男性の育児休業取得率についても、取得することが目標ではなく、新たな制度の導入により取りやすくなったという環境整備の方が重要と考える。

会長：女性の社会進出は重要な大きなテーマであり、男女平等の視点からも取り組んでいくことが必要と考えるが、資料の成果及び効果が市内婦人会への補助金交付など、テーマの大きさに対して視点が狭く見えるので表現は検討した方がよい。

分野 2 1 公共交通

委員：東武東上線の線路を東西に行き来する跨線橋がないことが問題と考える。東武東上線の西側からでは、市役所に行く場合やリニューアルしたびん沼自然公園のポスターを見て行きたいと思っても、バスを乗り換えないと行けないなど、不便であるので改善してほしい。

事務局：ふじみ野の跨線橋や関沢地域のアンダーパスなどはあるが十分ではないと認識している。跨線橋については、過去に計画があったものの現在事業

として動いているものはない状況である。市では、東武鉄道に対し近隣市と連携して高架化の要望を提出しているが、費用や用地等の関係もあり現実化するかは難しいと感じている。

委員：移動の安全性という説明であったが、交通事故の件数等も重要な指標となると考えるが統計はあるのか。また、どのように推移しているのか。

事務局：今回の審議対象としていないが、分野14の防犯・交通安全に交通事故の発生件数を取り入れており、件数については減少傾向となっている。

委員：ホームドアの設置とあるが、設置した場合どの程度鉄道による人身事故が減少するのか。ホームドアの設置も重要だが、自殺対策にも注力していくべきと考える。

事務局：自殺対策については、今回対象としていない分野で取り組むとしている。ホームドアの設置の主な目的としては、線路への落下防止であり自殺対策とは少し異なるが、先ほどの東武東上線の東西移動に関するものと合わせて東武鉄道に要望している。

委員：鉄道駅周辺の安全性の向上で駐車場施設の充実とあるが、みずほ台駅西口の駐車場の精算機の設置状況が利用しづらいものとなっている。角度によっては車のドアを開けるか車から降りないと利用できない場合もある。また、精算機によっては新紙幣が使えないものもあるので改善して利用効率を上げることが必要と考える。

分野23 公園・緑

委員：びん沼自然公園のパークゴルフ場のコースの途中にトイレを設置してほしい。

委員：大御庵の杜の活用とあるが、そこに生息しているオオタカの状況は。

事務局：県のホームページでも公表しており、現在も営巣していると聞いている。そこにある古民家を活用していくものであるが、オオタカに影響が出ないように県と協議を行いながら整備を進めていく予定である。

意見：湧水の水質について、富士見江川はイワナが生息できるほどの良い水質であるが、そのことを知っている市民が少ないと感じるのでもっとアピールしたほうがよい。

事務局：環境課では自然分野の専門家を講師とし、実際に川に入るなど川の学習会などを開催し、アピールに努めているが、十分に伝わっていないと感じるため、引き続きPRを進めていく。

分野 30 総合行政

委員：財政運営の中の自主財源比率について、ふるさと納税の記載があるが、ふるさと納税の金額自体をK S Fに設定してもよいのではと考える。

事務局：ふるさと納税額については、他市の状況による相対的な影響もあることから目標値としての設置は難しい。

委員：ふるさと納税は富士見市の特産品であり、アピールの手段としてとても有効であると考えるので、もっと注力すべきである。

会長：ふるさと納税の現状として、出る額と入る額の状況は。

事務局：令和6年度決算では約4億円が市民のふるさと納税により出ている一方で、入る額は3,000万円程度となっている。

会長：人材育成の職員の能力開発で、1年に1回以上研修を受講する職員の割合とあるが、集団研修のことなのか、個別に受講する自主研修のことなのか。

事務局：集団研修と自主的に受講する個別研修の両方を対象に、年間1回以上の研修受講をした割合として集計している。

会長：研修の受講が職員の能力開発に直結するかどうかは難しいところではあるが、ハラスメントやD Xといった新しいテーマに関しては、研修により知識を入れていく必要があると考える。それを踏まえると、指標として1年に1回では物足りない印象がある。O J Tも各職場における研修として成果をもたらすものであり、職員が仕事をすることが研修ともいえるので、第2期基本計画においては内容を充実させ職員の能力開発につながるような形にした方がよい。

委員：この審議会のように官民連携といった民間とのつながりを研修の分野で活用するとか、市民の中でD Xとかハラスメントとか講師ができる方もいると思うので、積極的に活用することで活性化につながるのではないかと、総合行政の分野でもこのような活用を進めるべきではないかと考える。

4 閉会 志摩副会長